

永幡祥子

## 戌の刻に

(峠の山道)

やれ うれしや  
これがないと 歩けまいが  
照らしてもらや 夜をこめてゆけよう

(山里の家)

熱い体で うわごとをつぶやく  
病む子に どうぞ  
つめたくあおい そのひかりを

(山中の破れ寺)

あいつが出ては 仕事ができぬ  
こう明るくては 影も濃い  
さて 今夜はどの手で 忍ぼうか